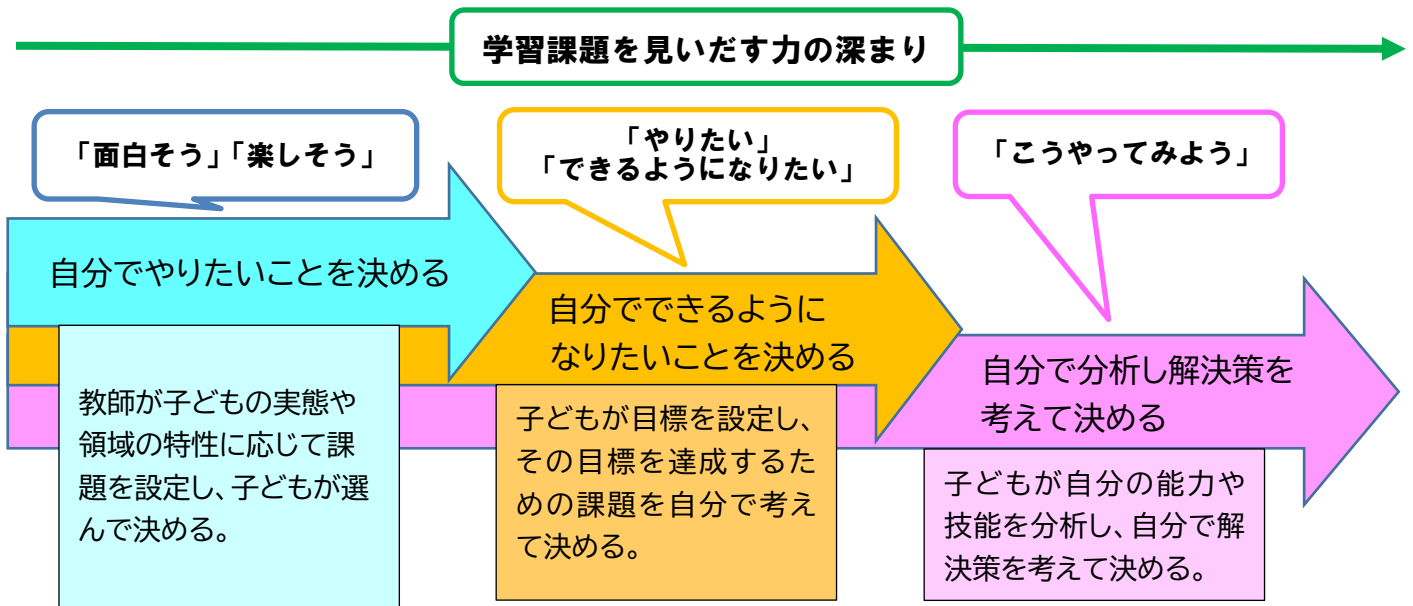


学習課題のとらえ方について



「できる・分かる」の積み重ね

1学期の授業提案から、児童が学習を通して「できる・分かる」を積み重ねていくことが大切だと考え、副主題として設定することにしました。

「できる・分かる」を積み重ねると…

- ◇自分ができる。
- ◇できそう、やってみよう。
- ◇もっと～したい。次はこうしよう。

「できる・分かる」を経験していないと…

- ◆自分には無理だ。
- ◆どうせできない、やりたくない。
- ◆仕方なくやる。何となくやってみる。

児童が「できる・分かる」ことを実感しながら学習に取り組むことができれば、「達成感を伴った楽しさ」を味わい、次時や今後の学習への意欲を高めることができると考えました。さらに、児童自身が自分の取組を肯定的に振り返ることが次の学習課題の設定につながり、その繰り返しのよって本校の目指す児童の姿に近づくことができるであろうという仮説を立てました。

そこで、副主題として、「『できる・分かる』の積み重ねを通して」を設定し、児童が「できる・分かる」を実感することができる授業づくりを目指すことにしました。

今後の検討事項

「運動を楽しむこと」と「技能を高めること」を両立させる授業づくり

本研究では、体育の授業を通して運動好きの児童を育て、生涯にわたって運動に親しめるようになることを大切に考えています。そこで、すべての児童の「やってみよう」を引き出し、「楽しい」、「もっとやりたい」という思いをもたせる授業づくりに挑戦しています。そして、運動の楽しさに触れる活動と個々の思いや願いを重視し、運動が苦手な児童も満足感を得られるような手立てを検討してきました。

しかし、「運動を楽しむこと」と「技能を高めること」を両立させる授業づくりの難しさに直面しました。技能を高めることについては、児童に「できなかった」、「つまらない」、「やりたくない」という思いをもたせないように配慮してきました。一方で、単元の目標にどの程度迫れていたのか、個人の学習課題と単元の目標を授業でどのように関連付けるのか、今後の検討事項となっています。